



西日本区ホームページ・http://www.ys-west.or.jp/  
西日本区中部ホームページ・http://www.ys-chubu.jp/

## 2014年5月号

### 「主題」

- 国際会長 : 全ての世界に出て行こう。  
 アジア地域会長 : 未来を始めよう、いますぐに。  
 西日本区理事 : 志をもって例会に参加し、学びの機会を持ちましょう。  
 中部部長 : 長所を活かして生き生きと。  
 プラザクラブ会長 : 5年後のプラザの為に今何を。  
 強調月間・活動 : 【LT(leader-training)・LT のきかいをすべての会員で共有しましょう。自身の学びをメンバーとの親睦とクラブ活性化につなげましょう。】

### 5月例会および今後の予定案内

#### 【5月第1例会】

日時：5月8日(木)・18:45-  
 場所：名古屋YMCA会議室  
 内容：卓話「災害防止について」  
 講師・高田 廣さん

#### 【5月第2例会】

日時：5月22日(木)・18:45-  
 場所：名古屋YMCA会議室  
 内容：次月例会の打ち合わせ  
 出席義務者：役員(島崎・榎田・後藤)  
 6月担当者(小澤・西野)  
 7月担当者(島崎・後藤)

#### 【今後の予定】

- 東北旅行  
 日時：6月1日(日) - 3日(火)
- 老人ホームへの音楽慰問  
 日時：6月8日(日)・集合・小澤邸・時間：12:00  
 場所：アミュー豊山
- 西日本区大会  
 日時：6月14日(土) - 15日(日)  
 場所：シンフォニアいわくに
- 第1例会(POM・プラザ創立記念月)  
 日時：6月22日(日) - 23日(月)  
 場所：名古屋市休養温泉「松ヶ島」
- 6月第2例会  
 日時：6月26日(火)・18:45-

### 4月例会およびその他活動報告 (敬称略)

役員	会員氏名	出席者		
		1	2	①②③④⑤⑥⑦
	大島 孝三郎	○	○	○○
	小澤 幸男	○		
書記	榎田 守隆	○	○	○
会計	後藤 猛	○	○	
会長	島崎 正剛	○	○	○
	鈴木 誉三	○		○
直前会長	高田 廣	○	○	○
連絡主事	西野 真希	○	○	
ゲスト	万福寺 昭美	○		
諸活動	①チャリティーウォーク 4/5 ②アール・ブリュット展・応援 4/17-27			
出席率(%)				100.0
クラブファンド(円) ・当月/累計				8000
6月号寄稿者・鈴木(1600-2000字程度) 7月号・島崎/8月号・高田/9月号・大島				

【2013-14年度クラブ役員】メネット連絡員・島崎正剛/副会長。プラザファンド・後藤猛/プリテン委員長。メール委員・榎田守隆

EMC. BF. EF. JWF・高田廣/YMCA サービス。IBC. YEEP・小澤幸男/GS. TOF・鈴木誉三/広報事業・大島孝三郎/連絡主事・西野真希

LT・ワイズメンとしての指導力養成のための研修。

## 4 月第 1 例会報告

日時:4 月 10 日(木)・18:30-20:30

場所:居酒屋「みなと」

### 1. 連絡事項

#### (1)障がい者アート展支援・島崎

4 月号記載通り名古屋クラブ谷川さんに連絡済、各自申告の日時、作業をお願いします。

#### (2)老人ホーム音楽慰問実施日、場所・小澤

日時:6 月 8 日(日) 集合時間・小澤宅:12:00

場所:アミーユ豊山

愛知県西春日井郡豊山町豊場字志水 37

#### (3)東北旅行参加費・後藤

a. 13/10-14/4 積立金 3000×7 ヶ月=21,000 円

b. 西日本区大会返金 10,000 円

c. 14/5 月第 1 例会徴収(会費・7,000 円)

(参加者 積立金) 3,000 円

d. 計 34,000 円

e. 参加者は第 1 例会(5/8)で 10,000 円(c. 会費+積立金)、不足分 26,000、保険料 1,700、合計 37,700 円を徴収します。なお、不参加の方の積立金、西日本区返金分は 6 月の第 1 例会で清算します。

#### (4)ワイズ通信報告・榎田

3 月 13 日-4 月 9 日分 19 通一覧表にて報告、項目のうち書面が必要な方は榎田までお申し出ください。

### 2. 歓送迎会



4 月 1 日発令された名古屋 YMCA の人事異動にともない、わがクラブの連絡主事が、YMCA かみさわ保育園の

西野真希さんに替わりました。前任の万福寺さんは今後の業務拡大に備え、本館専任となります。きょうはお二人の歓送迎会をここ「居酒屋 みなと」で盛大に行いました。

クラブのメンバーは社長さん 4 人と年金生活者 3 人、平均年齢??歳を超す大人のクラブです。中には、俳句をたしなむ人、四十の手習いで Hammond オルガンを弾く人、溪流釣り 40 年を誇る人、下手な陶芸を楽しむ人など多彩な顔ぶれが揃っています。西野さんの酒量はソコソコらしく、反省会が頻繁なクラブで、まずは一安心、少々変わった人たちの集まりですがよろしくお願ひします。会はずももの通り病氣と中国と景氣を話題に終始し、午後 8 時半解散した。

## 4 月第 2 例会報告

日時:4 月 24 日(木)・18:45-19:30

場所:名古屋 YMCA 会議室

### 1. 連絡事項

(1)西日本区大会参加者最終確認・島崎  
変更なし

(2)6 月第 1 例会定例日変更・島崎

6 月は行事が多いため、6 月 22 日の POM を第 1 例会に、第 2 例会は予定通り 6 月 26 日とする。

(3)三陸旅行参加者の費用徴収確認・後藤  
第 1 例会議事録 1. (3) 項参照

(4)次期年間計画表およびクラブ役員(案)・後藤  
メール委員を榎田から大島に変更。

### 2. 5 月第 1 例会・榎田

高田さんに卓話をお願いする。演題は「災害防止について(仮称)」の予定。

## 第 2 回チャリティウォークに参加する

4 月 5 日(土) 12:00、地下鉄野並駅出口に集合し、神沢ファミリー YMCA をゴールとして名古屋地区 5 クラブから参加した 7 名が 4.5km を歩いた。東海クラブ浅野猛雄ワイズの案内で、歴史ある鎌倉街道や古鳴海八幡社、嫁ヶ茶屋公園などのスポット、更に伊勢湾台風災害の瓦礫を積み上げて造られたという滝の水公園、ほかに新海池(にいのみいけ)、など景観と眺望に優れた所を巡りながら、満開の桜と陽ざしを楽しんだ。

滝の水公園は名古屋ドームより広く、高さもビルの 5 階ほどであろうか、このあたりは目を遮るものが無いので 360 度、尾張平野を遠くまで見渡せる。新海池は市内最多の 47 か所を誇る緑区の溜め池の中でも最大のもので、辺りには桜の木や草花が整備されていてピクニックに結構適う場所である。途中のこんもりと

した竹やぶと高い樹木に、10個ほどの大きな鳥の巣が見え、歩道にまで糞が広く落ちていた。鶏小屋のような懐かしい匂いがした。案内看板に依ると青鷺らしい。青みがかかった灰色の羽を広げゆったりと飛ぶ様に感動すら覚えた。市内にもこれほど自然が残っていたとは嬉しい発見であった。

今回のウォーキングは久しぶりに開設された名古屋YMCAのランチとかみさわ保育園の内覧会も兼ねたものではあるが、竣工・献堂式には人数の制約で入場を遠慮するため、途中のコメダで時間調節してのゴールとなった。

参加料は全額YMCAから被災地に向けて寄付される。施設は大変明るく入園者には大いに喜ばれるに違いない。幼児用の小さな便器がいくつも並んでいたのはほほえましかった。



(大島 孝三郎)

### 障がい者アート展のお手伝い

21日の搬入作業を申告していたがすっかり忘れ、気がついた翌日、谷川さんに電話でお詫びと今日24日の受付C班への変更をお願いして了解を得た。



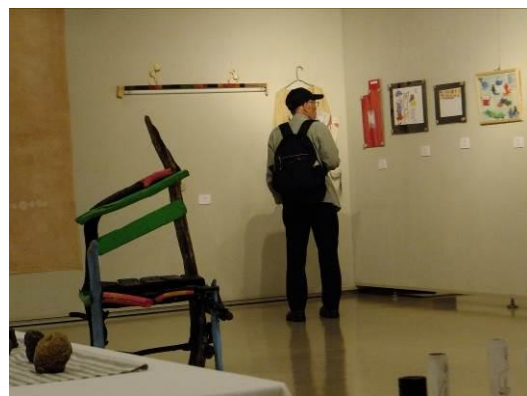
(受付に座る・左から小谷夫妻、尾関夫人)

午後3時に会場へ到着、既に名古屋クラブの尾関夫人と小谷ご夫婦がお見えになっている。なぜか小谷さんとはワイズ行事のときにお会いし、色々のお話を聞かせていただいている、「暇であれば今日も」などと不謹慎な考えが頭をよぎる。

前任者たちが記録しているノートには、22日は100名、23日は85名と参観者の人数が記してあるが、今日は午後3時までに40名は少ないとB班の方が嘆いていた。展示品は大小の絵画、額縁に納まった貼り絵、「あり」の字が連なる書、コーヒーカップに入るほどの陶器のフクロウやお地蔵様、流木で作ったイスなどユニークな作品が並んでいる。



やはりお客さんはポチポチと来場される。その間の小谷さんのお話が面白い。1970年技術研修旅行に欧米を回った時、アメリカの Smithsonian 博物館に「月の石」が展示されている、とのことで訪れたが「月の石は今日本に行っています」と観られなかった。日本に帰った時、既に大阪万博は終わっていた。そうだ、大阪で会議があった翌日、3時間並んでガラスケースに鎮座している「月の石」を見たことを思い出す。また、イギリスのロールスロイス社ではエンジンの写真は勿論、メモを取ることや概略図を描くことは厳禁、その時作っていたコンコルドのエンジンは見せてもらえなかった、と興味が尽きない。



午後6時、ギャラリーの職員が来て来場者の人数を確認する。受付テーブルの上を整理し戸を閉め、明日の当番に託して解散する。

## 聖書の言葉

【しかし、もしあなたがたの心の中に、苦々しいねたみや党派心をいだいているのなら、誇り高ぶってはならない。また、真理にそむいて偽ってはならない。(新共同訳 ヤコブの手紙 3. 14)】

【俗っぽく言えば「嘘をつくな、人を騙すな」だが、説教では『あなたがたは、内心ねたみ深く利己的であるなら、自慢したり、真理に逆らって嘘をついたりしてはなりません』となる。新共同訳の聖書が「党派心」としている箇所を新改訳は「敵対心」と訳している。双方の意味は、党派心・一つの党派に偏する心、敵対心・敵として立ちむかおうとする気持ち、と多少異なる。「敵対心」は対立する相手が広範にわたり、教会内で分裂分派が起きた時代に「敵対」は適切な訳語ではない、と思われる。正典「ヤコブの手紙」は著者が誰かはっきりしていないが、成立時期は 50 年代から 2 世紀はじめまでと推察される。内容は、各地に離散するユダヤ人にあてて『キリスト者の生活における行いの重要性について再確認してもらおう』ためである。宗教改革の時代、マルティン・ルターは『「信仰のみ」とパウロを批判するだけの文書』として「藁の書」と呼び正典から外そうとした。】

【4 月 22 日付中日新聞朝刊に『金字経で錬金術? 利ざや目的か 平安後期 黄銅混ぜる』の見出しで、『鳥羽上皇の皇后・美福門院(びふくもんいん)が発願した「紺紙金字一切経(こんじきんじいっさいきょう)と見られる平安時代の経典の金文字に、黄銅(銅と亜鉛との合金・真鍮)が混ぜられていることが分かった。金字経は本来、金で書かれるもので、当時の最高貴族の美福門院に金を確保する財力がなかったとは考えづらい。発注を受けたお経の制作者が金の代わりに黄銅を混ぜ、利ざやを稼いでいたのでは』と書いている。昨年 10 月、阪急阪神ホテルズのレストランがメニューと異なる食材を使ったとして社長が謝罪した。その後、ビーフステーキは加工牛肉、レッドキャビアはトビウオの卵、鮮魚のムニエルは冷凍などでした、と次々に一流ホテルや旅館、ミシュランガイドの星付きレストランのお偉い方々が、深々と頭を下げる謝罪会見をテレビで四六時中見ることになる。紺紙金字一切経は高野山に奉納した 5000 巻にのぼるお経とか、1000 年前も今も人を騙して儲けようとする、罰当たりな不届き者はいるようだ。】

## Zoom・化粧するお金

きょう 4 月 8 日の新聞は、みんなの党代表の渡辺氏辞任を伝える記事で溢れている。この話題は、「週刊新潮」が化粧品販売会社ディーエイチシーの吉田嘉明会

長から借りた 8 億円の内 5 億 5000 万円を返していない、との告発が発端である。以後 8 億円の使い道についていろいろ追及され、きのう辞任に追い込まれたのはご存知の通り。新聞では吉田会長がお金を貸した目的や週刊誌で暴露した意図などがはっきりしない。

中日新聞は『(渡辺喜美氏は)吉田会長に対して「大変な迷惑をかけた」と謝罪を口にしたが「吉田会長の方からいろいろ(マスコミに)お話されて、騒ぎが大きくなった。お世話になった方から刃を突き付けられた」と、恨み節ももらした』とあり、吉田嘉明会長は『お金を返してもらったからには、本人が何に使ってしようとした者には何の関係もありません』とコメントしている。また、社説には『化粧品販売会社会長は渡辺氏への貸付金を公表した理由を「脱官僚の主張が薄れ、さらに党が分裂した」などと語った、という』と書く。日経は『12 年の 5 億円については借用書がないため「贈与税逃れ」との指摘もある』と政治絡みとは関係ないような記事に、『党首辞任ははじめにならない』と主張する社説を載せる。

きょうの各社の社説をネットで調べてみた。産経、読売、毎日、会長から借りた時期と金額ぐらいいか書いていないが、朝日は『吉田氏は、みんなの党と結の党の分裂時の渡辺氏の行動に納得いかずに、借金問題を明らかにしたという。一方、渡辺氏は、吉田氏から「いうことを聞けないのであれば追い落としも考えるという話をされた」と言っている。両者の間には、さらに込み入った事情もありそうだと意味深な言葉で結んでいる。「込み入った事情」とは何だろう、先に書いた貸し付けの目的と暴露の理由だろうか、またまた気になった。

3 月 31 日付の渡辺氏のブログ「ヨッシー日記」を開いてみた。吉田氏との関係部分を要約すると以下の通り。吉田会長からメールで「結の党の会派離脱を認めよ」と国会内の会派問題まで口出しして来る、これは江田代表と相談の上のことらしい。会派離脱は認めたが「予算委員会の 3 名の委員のうち 1 名を結の党に分け与えよ」出来なければ支援してきたことを世間に公表する。『今回の騒動の本質はみんなの党から別れた江田憲司氏の結の党が仕掛けた権力闘争です。それゆえ吉田会長は私に代表辞任・議員辞職を迫ってきているのです』一方的かもしれないが、ある程度の真実は語っているようです。

いまだきの政治家は、ブログを掲載しているのは当たり前前、マスコミ連中はそれを情報源の一つとしている筈である。各社、裏の事情は知っていたが、「泣く子とスポンサーには勝てぬ」、あえて書かなかったということかな。

(2014 年 4 月 8 日・記)